

地元出身選手が大活躍!

プロ野球阪神タイガース

能見篤史選手と中貝市長が対談!

12月17日、本市出身のプロ野球阪神タイガース選手の能見

篤史さんが市役所を訪れ、中貝市長に近況を報告しました。

能見さんは、今季(2009年のシーズン)、投手として大活躍。勝利数や防御率、投球回数、奪三振数でチームトップの成績を収めました。

その能見さんと中貝市長が対談しました。

《問合せ》スポーツ振興課 ☎21-9023



▲能見篤史さん(右)とサイン入りバットと色紙を手にする中貝市長

大活躍の1年

市長 昔、職場の野球チームで投手をしていたことがありますが。いかに遅い球を投げるかというところで…(笑)。能見さんは、今シーズン、花が咲いたような活躍でしたね。

能見 とんでもないです。チームが優勝できなかったのです。

市長 それでも、今年(平成21年)は、能見さんも大活躍ですし、全日本バレーボールの井上香織さんもそうですが、本市出身のスポーツ選手が調子いいんですよ。とてもうれしいです。

能見 ありがとうございます。

市長 能見さん出身の出石町小坂地区は、平成16年の台風23号災害で特に大きな被害を受けたのですが、地域の方々が頑張って立ち上がってこられました。そして、コウノト



能見篤史さんのプロフィール

出石町丸中出身。小坂小学校、出石中学校卒業後、鳥取城北高校へ進学。大阪ガスで社会人野球を経て2004年プロ野球阪神タイガースに自由枠で入団。2009年のシーズンは主に先発投手として13勝9敗、防御率2.62の成績を収めた。

りが来るようになって、子どもたちもコウノトリの観察などを頑張っています。これは、ひどい目に遭ったときに、いろんな人たちに支えてもらった、応援してもらった、という思いがあったからでしょう。だから、自分たちの先輩が活躍していただくと、きつとうれしくなります。

能見 そうなればいいですけど…。

市長 来年度以降も大活躍です。

能見 そこは難しいです。

市長 ここは、力強く「よっしゃ」ではないのですか。

能見 いえいえ。大きなことは言えません(笑)。

父の影響

能見 今の自分があるのは、

父の影響が大きいです。小さいころから自宅のテレビに映る野球中継をずっと見て育ったのが影響していると思います。

市長 お父さんの指導を受けられたのですか。

能見 父は、あえて指導をしてくれませんでした。私が少年野球のチームにいたころも、そのチームのコーチをやっていたんですが、自宅で野球を教えるもなかったという記憶はありません。

市長 公平というか、厳格だったのですね。

能見 そういう訳ではないでしょうけど…(笑)。

市長 照れくさかったんでしょうか(笑)。

能見 物心付いたときから野球をやっていました。

市長 テレビを見ていたことより、お父さんの影響が大きかったですね。

個人よりチーム

市長 来季(2010年)のシーズン(の抱負は何ですか。

能見 チームの優勝しかありません。

市長 自分自身の抱負は何ですか。

能見 自分個人の目標はありません。

ときに、自分がしっかりと一軍で投げていられたらうれしいなと思います。今年は、このような成績になりましたけど、やはり、チームが4位という成績でしたので、うれしさが半減しました。

市長 チームが優勝できて、自分自身も活躍できれば、それ以上、うれしいことはないということですね。今日の記念に「コウノトリのお守り」を用意しました。これはよく効きますから(笑)。ヨーロッパのコウノトリは赤ちゃんを運ぶ鳥ですが、日本のコウノトリは、幸せを運ぶ鳥です。これで来季は優勝です。

能見 ありがとうございます。

市長 今年、出石を訪れる観光客も、新型インフルエンザで一時落ち込みましたが、その後、盛り返して、たくさんの方に来ていただいています。出石の魅力が輝いてきました。

そういう意味では、出身地ということ、能見さんと井上さんの2人が、「ふるさとのため」と思っていたただけなく、頑張っていたただけで元気が出ます。

能見 (笑顔！)

市長 いただいたバットとボールは、市長室というより、多くの人に見てもらえる体育施設に飾りたいと思います。今日は、ありがとうございます。

能見 ありがとうございます。



▲出石B&G海洋センターにある能見さんと井上さんのグッズ展示コーナー

「決してめきらめなうー!」

「母校出石中学校の後輩たちへのメッセージ」

能見さんは、中貝市長との対談を終えた後、母校の出石中学校を訪れ、「夢の実現に向けて」と題して講演を行いました。

会場となった中学校の体育館には、全校生徒321人や保護者などが集い、生徒たちからは、野球に対する姿勢など、さまざまな質問が投げ掛けられました。

Q 中学校時代から、将来はプロ野球選手になろうと決めていたのですか。

A 全く思っていませんでした。野球は好きでしたが、プロ野球選手は「あこがれ」でした。

Q うまくいかないときは、どのように乗り越えますか。

A 成功するまでやる。どんなことにも共通することです。あきらめないことが一番だと思います。

Q 中学校時代、勉強は好きでしたか。

A 勉強が好きな人はいないと



▲後輩たちの質問に答える能見さん

思います。しかし、大人になると、勉強が役立つということが分かります。「この授業、嫌だなあ」と思わず、その中で何か一つでもプラスにしていってください。

Q 中学校時代、野球以外で目標を持って取り組んだことはありますか。

A 野球以外の目標はないです。野球ができるということ、学校に行くのも楽しかったですし…。あまり参考にしないでください(笑)。

Q 野球を途中でやめようと思ったことはないですか。

A 中学生のときに一度思ったことがあります。野球部の監督とけんかみたいになり、やめてやろうと思いま

したが、本当に野球が好きだったので、しっかり謝って、「もう一度やらせてください」と言いました。

Q 打者の中では誰が怖いですか。

A 外国人選手です。ボールを当てると怒るので(笑)。

Q どの選手から三振を取ったときが一番うれしかったですか。

A 巨人(読売ジャイアンツ)の選手全員です。強いチームから三振を取ると、とても自信になります。

時には、ユーモアを入れながら、後輩たちの質問に分かりやすくやさしく答えた能見さん。最後に生徒会長の西村裕貴君(2年)が「出石中学校の良き先輩として能見選手のことを誇りに思い、ずっと応援していきます」とお礼の言葉を贈りました。



▲母校の後輩たちに温かく見送られる能見さん